



竹田市久住町白丹にある丸山自治会は、14戸35名が暮らす山あいの集落です。少子高齢化が進む中でも、「行政に頼り切りにならず、自分たちでやれるところまではやろう」と、独自のにぎわいづくりに取り組まれています。

懇談では、まずこれまでの取組についてご説明いただきました。平成27年から夏場の涼しさを生かしたスポーツ合宿の誘致に取り組み、全国でも有名な強豪校の陸上部など延べ700人近い選手を受け入れてきました。しかし、残念ながらコロナ禍により合宿が中止になってしまいました。そこで、新たに田んぼを利用した立ちこぎボード「SUP」体験を始めたところ、その取組が全国的にも珍しいと評価され、令和3年度に第9回スポーツ振興賞（スポーツ庁長官賞）を県内で初めて受賞しています。

皆さんからは、様々な取組により、山あいの地域に子どもたちの声が聞こえてきた、メディアや県内外の地域づくり団体等からの視察も多くなったなどのお話をお聞きした。また、独居高齢者へのサポートやデジタル化への対応支援等の地域が抱える課題についても、ご意見、ご要望をいただきました。

他地域のモデルとなる楽しい取組をしている皆さまから元気をいただいたことに感謝を申し上げ、さらなる発展のために市とともに努力していきたいとお伝えしました。



関連する県の施策

☆事業名：地域活力づくり総合補助金

事業概要：地域活力の維持・発展を図るため、地域住民等が行う魅力ある地域づくりや特色ある取組を支援

予算額：5億円

【田んぼSUP賑わい創出事業（令和4年度）】

田んぼを利用したSUP（スタンドアップパドルボード）体験を実施して地域の賑わいを創出するため、「地域活力づくり総合補助金」を活用し、SUP3艇の購入及びSUP保管用倉庫の整備を行っています。

令和5年度までに県内外から800人以上が体験に参加し、地域に子どもたちの大きな歓声が響きました。

